

令和6年度 新金沢型学校教育モデル実践推進事業 報告書

学校番号 204

学校名 紫錦台中学校

校長名 神農 幸子

デジタル活用能力向上推進校

担当者名 吉村 威志

1 研究の重点と具体的な取組

重点1 1人1台学習用端末の活用の充実

1人1台学習用端末の活用する場面を、「情報を得る場面」、「整理・比較する場面」、「発信・伝達する場面」、「真偽を吟味する場面」、「複数の情報を結びつけて新たな意味を見出したりする場面」の5つに設定し、デジタル活用能力の向上を図る。

① 5つの場面を年間指導計画に設定

・各教科の見方・考え方に沿って効果的、計画的なICTの活用。

② 飛梅タイム（総合）での1人1台端末の活用

・国際理解や環境問題について、情報収集や課題発見、課題解決に向けた考えの発表。

③ 教師の授業力の向上

・校内研修会の充実：教師の授業力向上を図るための校内研究授業や指導案検討。
・相互授業参観：授業参観や授業の様子をClassroomへの掲載閲覧による情報交換。

重点2 思考力・判断力・表現力の育成

デジタル活用能力を育成することで、情報を読み取る力や表現力の育成を図る。

① 定期テストで資料等を活用した問題を出題。

2 研究の重点と具体的な取組の内容

重点1 1人1台学習用端末の活用の充実

・生徒アンケート「1人1台学習用端末を活用した授業が好きだ」の肯定的評価：93%
「授業の中でデジタル端末を使って学ぶ場面がある」の肯定的評価：74%
・教師アンケート「1人1台学習用端末を積極的に活用した指導」の肯定的評価：100%
「デジタル活用能力の向上に向けた授業」：2学期平均9.7回（目標8回）
・年間指導計画に設定することで、教師が1人1台学習用端末を活用する意識を高めることができた。デジタル活用能力の向上をねらいとした授業も増えてきており、生徒が多くの考えに触れる機会が増えることにつながった。

重点2 思考力・判断力・表現力の育成

・定期テストでの資料等を活用した問題の出題：正答率：59%
・県評価問題調査では、「資料の適切な読み取りや表現」や「複数条件を関連付けた表現」にいて課題が見られた。
・ICTを活用し、資料等を読み取ったり、「まとめ」を自分の言葉で書くことができるよう工夫を進めたが、苦手意識のある生徒への支援が不足していた。

3 成果と課題

・授業の中で、1人1台学習用端末を活用する姿勢が生徒に身につけており、「情報を得る場面」、「整理・比較する場面」、「発信・伝達する場面」での学習活動では、主体的に活動に取り組む生徒の姿が見られた。また、自分の考えをスライド等にまとめることで、発表が苦手な生徒も自信を持って発表する姿なども見られた。しかし、「資料を適切に読み取り表現すること」や「複数の条件を関連付けて表現すること」で課題が見られる。みんなで考えを深める活動において、自分の考えが正確に伝わるような情報を整理する場を設定したり、生徒が選んだキーワードから、自分の考えを表現できるよう指導を工夫していきたい。
・教師のICTの活用として、資料の比較や視覚的にイメージさせるなど、教科にあった1人1台学習用端末の活用が増えた。また、オクリンクを活用し、生徒間で考えを交流させる場面も増えた。しかし、設定した5つの場面のうち「情報の真偽を吟味する場面」、「複数の情報を結びつけて新たな意味を見いだしたりする場面」など、考えを深める活動でのICTの効果的な活用が難しい。課題解決に向けて、生徒が必要な情報を選択したり、目的に応じて情報交換する相手を選ぶような場面を設定していきたい。